

シルバー

さんむ

公益社団法人

第1号

平成24年5月

公益社団法人

山武市シルバー人材センター

〒289-1514 山武市松尾町松尾47-3

TEL 0479-86-6616

FAX 0479-80-8280



松尾藩主太田資美御住居の門

松尾考

徳川幕府末期の慶応3年、大政奉還した幕府は本拠である江戸城を明渡し、徳川宗家は明治新政府により駿府70万石の1城主とされてしまいました。その結果、駿府・遠州2国の大名はトコロテン式に所替えとなり、掛川藩主の太田^{すけよし}資美は武射郡全域と山辺郡の一部53,000石を領する松尾藩の知事となりました。この“松尾”とは掛川藩の居城の名称が松尾城と称していたことに由来します。掛川市内には今でも松尾という名称の付いた町名や橋が残っています。

平成二十三年度第二回通常総会

平成二十三年度第二回通常総会が去る三月二十七日（火）午前十時から、のぎくプラザ大ホールにおいて、山武市議会から来賓をお迎えし、多数の会員の出席を得て盛大に開催されました。

はじめに、高木会長からの挨拶があり、続いて来賓の山武市長欠席の為代理の副市長山本三夫様から挨拶を頂き、更に、市議会副議長宍倉弘康様、保険福祉部長及び賛助会員を代表して能勢秋吉様から祝辞をいただきました。

その後笠原菊男会員及び新田博会員を議事録署名人として選出し、提出された議案審議に入りました。

議事

- 一、平成二十四年度事業計画（案）
- 二、平成二十四年度収支予算（案）

議事はいずれも賛成多数で可決されました。

続いて「公益社団法人への移行についての」の報告があり、四月一日から公益社団法人に移行し、事務所はこれまでの松尾連絡所に変更になる旨、説明されました。

続いて、退任役員及び退職職員の紹介と挨拶が行われました。

	公益社団	一般社団
理事会	設置必要	設置可能
監督	県庁又は内閣府	なし
許認可	公益性認定	なし
課税	原則非課税	課税
報告	行政庁へ提出	なし
役員報酬	支給基準を公表	制限なし
目的性	公益目的事業	なし
理事資格制限	あり	なし



冒頭の高木会長の挨拶模様

公益社団法人山武市シルバー人材センター

住所 山武市松尾町松尾四十七番地三 松尾ふれあい館内
 ☎ 0479・86・6616 FAX 0479・80・8280

職名	氏名
事務局長	津久井 知世
経理主任	高林 千代美
業務係主任	藤田 進久
業務係	塩崎 照夫
業務係	関谷 一徳
業務係	土屋 隆夫
業務係	竹内 昭夫
業務係	川畑 桂子
業務係	布施 美恵子

◎平成二十四年度事務局体制について◎

この四月一日に公益社団法人山武市シルバー人材センターとしてスタートしました。それに伴い、本所の移転・連絡所の形態の変更で会員の皆様にはご不便をおかけする事もあるかとは思いますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。つきましては、事務局の体制についてご案内します。

★公益社団法人と一般社団法人の違い★

大きな違いとして、上表のとおりとなります。文字のとおり、公益社団と名乗るように、今までより、さらに公益性が高まることとなります。併せて、自主的な運営性を求められる事になります。

しかし、会員の皆様が就業することについては、今までと何も変わりませんのでご安心ください。何か不明な点や、わからない事があれば、お気軽に事務局までお問い合わせ願います。

E-mail sammu@sjc.ne.jp

HP <http://www.sjc.ne.jp/sambu/>

就任のあいさつ



会長 星久木 義雄

この度、会長に就任しました星久木でございます。皆様には、日ごろ、当センターの運営に対しまして、格別のご協力を賜り誠にありがとうございます。

社団法人山武市シルバー人材センターも、町村合併と同時に発足し六年が経過しました。この間、センターの発展を目指し運営して参りましたが、公益法人制度改革により、今年度から公益法人に移行しての運営となりました。

今、経済状況が低迷する中、シルバー人材センターを取り巻く情勢の変化に対し、シルバーの基本理念「自主、自立、共働、共助」のもと、地域や時代の要請に応じられるよう、更に機能を強化する必要があると思えます。

会長に就任した今、会員、役員が一体となり、円滑な運営を推進し、会員の充実感を増し、地域社会に役立つ組織とすべく精進する所存でございます。

皆様のご協力とご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

↑シルバー人材センターの新しい事務所です。

お近くにお出の際はお気軽にお立ち寄りください。



退任にあたって

高木 壽

季節はめぐり元事務所脇の桜は満開となっていました。この度の法律改正により、公益法人としてスタートする機会に合わせて会長を退任することになりました。

今日まで、つつがなく過ぎることが出来ましたのは、会員および関係者の皆さんの温かいご支援・ご協力のたまものと篤く感謝申し上げます。

顧みますと、山武市誕生にあわせて四か所のシルバーも合併し、社団法人として発足したのです。当初は基盤も固まらず財政運営には大変苦労しました。

これらも、一つひとつ改善し、ようやく安定期を迎えることとなりました。常に会員のシルバー・お客様を念頭に法律・規則に沿って運営にあたって来たつもりです。今まで多くの会員さんとお話が出来ましたのは、大きな財産としていつまでも残りまします。ありがとうございます。これからは、新会長のもと公益法人として益々発展されることを期待しています。終わりに会員の皆さんのご健康とご多幸を祈念して退任の挨拶とします。

本所事務所を閉所しました

三月三十日、山武市合併当初より本所として事務を行っていた成東事務所を閉所しました。引越しが終わりガラんとした事務所を前にして、会員さんや発注者の方々と打ち合わせや世間話をしたり、締め切りに追われながら請求書を発行したり、など様々なことが思い出されました。

最後に職員で記念写真を撮り、高木前会長が『社団法人山武市シルバー人材センター』の看板を降ろしました。

一年後にはこども園が建設され、またにぎやかな場所になることでしょう。ありがとうございました。



会員の広場

追悼

小島幸美さんを偲んで

成東地区 青沼揚子

旧成東町シルバー人材センター設立者の小島幸美さんが二月十三日に亡くなりました。小島さんは平成十一年四月に私財を投じて、奥様の寿代さんとの手作りシルバーであったと聞いております。私はその年の六月に東京府中市から引越してまいりました。その時の広報誌でシルバーの存在を知り入会させていただきました。上横地の、こじんまりした事務所での面接で小島さんの寡黙ながらも真面目で、働き者で、誠実さが滲み出ておりました。

私の最初の仕事は山武に近い葎屋さんの手伝いでした。そのときも、小島さんご夫婦の送り迎えで、きめ細かな心遣いのある活動に会員皆さん和やかな雰囲気楽しく仕事をさせていただきました。

現在、山武市シルバー人材センターも、公益法人へと大発展致しましたが、その礎を築いた小島さんのご尽力に心から感謝致したいと思います。有難うございました。

ここからご冥福をお祈り申し上げます。

合掌。



左千夫・生家の屋根葺き替え

成東地区 金田 弘之

四年ほど前、左千夫・生家の屋根葺き替え工事に携わったときのお話をしてみたい。

派遣されたシルバーは一〇名(うち女性三名)くらいであったろうか。記念館の前に集合していると、萱(カヤ)を満載したトラックが到着した。

遠い昔(六〇年前)、山と積まれた萱の上で、牛車に揺られた月夜道が思い出されたが、この萱は御殿場からはるばる運んで来たのだという。この建物の屋根の面積は三三〇平方メートル(約百坪)なので必要な葺は七〇八トンとか。運ばれてきた御殿場のスキが三割で残りが芯があつて丈夫な地元・木戸川河川敷のオギアシを混ぜるといふ。

棟梁は蓮沼の佐藤さんで、郷土史や刀剣鑑定など民俗史の研究もされるというユニークな方であった。当時七五歳の現役(現在も八十歳で現役)、年季小僧からのたたき上げだそうで、今では職業そのものが風前の灯で文化財の茅葺屋根が主な仕事先だそうである。景気の良かったのは昭和三十年ごろであったが昭和五〇年ごろから萱葺屋根にブリキを被せる工事が大流行し、折角覚えた技術を捨てて転廃業する職人が増えたそうである。

屋根の葺き替えには平野地葺工程という順序があり、たとえば「長茅」↓「短茅」↓「延茅」↓「長茅」という業界用語の「一段一葺一上がり」とか「四枚茅葺」など奥が深く大変な作業なので棟梁の指示に従わなければ、未経験の我々はなかなか身体が動かない。棟梁は屋根の上から各グループに指示を与え、これを支えるスタッフ(奥様)

は、屋根の下で素人の我々に模範を示し、我々はそれに従って、茅の端を揃えて切断し萱束を作る作業や、屋根の上まで手渡して萱を運ぶ作業などを手際よくこなした。その茅は棟梁の巧みな手さばきで次々と葺きかえられ、萱は屋根の上で居場所を得て新たな命に蘇って行く。その後、左官が使うコテをおおきくしたようなガン木で隙間を埋め込み、椿の葉っぱの形をした鍬(椿鍬というそうである)でザクザクと手際よく整形されると実に見事な創造の瞬間を迎えたのであった。



初対面者もあり、リーダーシップや意思疎通など、シルバー相互の連携にぎこちなさはあったが、棟梁の指示や動作から次の一手を予測し、「左千夫生家」の修復に全員で頑張った。シルバーの延べ参加者は二三八人時、約一週間の作業で、立派な屋根が葺きあがり、なんとかお役に立つことができました。思うに、萱葺きの家屋は、縄文時代から数千年にわたり継承されてきた日本の伝統様式で、風土(生活環境と自然)に溶け込んだ景観は実にすばらしく、

里山や棚田に囲まれた竹まいは、心の安らぎや郷愁さえ感じさせる。かつては、どこでも見かけることができた萱葺き家屋であるが、最近は、白川郷、遠野など、一部の地域を除いて殆ど見当たらなくなってしまい、萱を葺く職人さんも少なくなったように思う。いまや文化財としても希少価値の高い萱葺き屋根とその技術。日本の総意で保存する必要性を感じ、その方策を思いめぐらしながら左千夫生家を後にした。

地域交流

日向小六年のボランティア活動

事務局 藤田 進久

日向小六年生四十七名は、総合学習のボランティア活動として、一月と三月に通学路の美化活動を行いました。シルバー人材センターは、これに同行してボランティア活動をサポートしました。

当日は、日向小から二キロメートルほどの通学路三コースに分かれて、往復1時間にわたり、ゴミを拾いました。児童たちは「空き缶があつた!」、「あそこにも何かあるぞ!」と言いながら、小さなゴミから奥のほうのゴミまで拾っていました。校庭でシートの上に拾ったゴミを広げて、環境パトロールの会員の指導を受けながら、燃えるゴミやリサイクルできるゴミなどの分別に取り組みしました。多種多様なゴミがあるので、分別する児童たちは悪戦苦闘していました。2日間で集めたゴミは二十袋ほどになり、この体験を通じて良い総合学習ができたことでしょう。皆さんお疲れ様でした。



親睦旅行

平成二十三年度親睦旅行に寄せて

成東地区 仲村 敏雄

年に一度の一泊二日の親睦旅行を毎回楽しみにしております一人です。日程は平成二十四年一月一〇日、十一日。参加人員は小川副会長を含めて四十名（松尾二、成東十五、山武十五、職員八名）と少なめでしたが、楽しい二日間でありました。天気晴朗のなか、バスは松尾支所を七時に出発し、各地区共、遅刻なく集合し、目的地に向かいました。バスの中では、自称綾小路〇〇さんの司会でカラオケが始まりました。あっという間に昼食先の「日本平」に到着、雲間に富士山を見つつ、清水港経田で「三保の松原」に向かいました。三保の松原は中学時代（十代）から六十年ぶりでしたが、松の幹が太くなったり、倒木もあつたりで、年月の流れを感じました。黒潮温泉のホテルに到着後、前掲の綾小路〇〇さんと××さんの二人の司会で

宴会が始まり、和気合と楽しく過ごすことが出来ました。翌日は焼津お魚センターや千手観音で有名な「大覚寺全珠院」等に寄り、バスの中では「ビンゴゲーム」を楽しんで、無事に帰路につきました。

参加人員が少なめでしたが、天気にも恵まれ、各地区の会員とも仲良くなり、再会を約束して解散いたしました。

この様な親睦旅行は会員同志のコミュニケーションを計るためにも、是非、毎年計画をお願いいたします。

俳句を一つ。

遠くみゆ 富士の山より 三保の松

一泊二日の旅に参加して

成東地区 河野 大治

総勢四十名を乗せて、山武・成東インターを通過、楽しみにしていた旅が始まりました。心配された都内の渋滞も杞憂となり、待ちこがれた泡の出る飲物の登場です。車内の雰囲気も旅らしくなり、至る所で談笑の花が咲き誇り飲物等の注文が途切れません。アルコールも程よく体内に浸透し、当然の如くマイクの争奪戦へと変化していきました。追い打ちをかける様に即席の綾小路三太郎やヨタロウも登場。車内の熱気は右肩上がりです。親睦と触れ合いを満載してバスは目的地へと進みます。

日本平から見た絶景の富士山、思わず息をのんだ三保の松原の老木の群。ハウスの多さに圧倒され農家の底力を見せつけられたいちご畑等、予定通りの時間に宿へ。温泉に入りしばしの間命の洗濯。さっぱりした所で宴会場へ。ここでも始まりました争奪戦が。「昭和の時代に若かった」方々の渾身のステージが延々と続きます。飽き足らず多くの方が二次会へ。

翌日、バスは予定に従い進みます。年は隠せても疲れは隠せない体に鞭打ってそれなりの見学をし、お土産を買って無事家路につきました。追伸、来年も楽しみにしています。

会員からの投稿

杉野ドレスメーカー女学院・杉野女子大学

創立者「杉野芳子伝」を読んで

杉野芳子は、明治二十五年（1892）三月二日千葉県匝瑳郡南条村芝崎（現横芝光町）の旧い地主の岩澤家に生まれた。芝崎小学校はお寺の本堂で一年から四年まで一人の先生に教わった。先生に或るとき、学校の裏山におんぶされていつて海を眺めることが彼女の記憶に残っていた。橋本先生は「あの海が太平洋だよ。太平洋の向こうには、アメリカという大きな国がある。私ももう少し若かったらアメリカに行きたい。こんな小さな村に居ては偉くなれない。勉強してアメリカに行きなさい。」この時の先生の会話から、彼女のアメリカへの憧れが育っていった。そして、千葉高女へと進み、卒業して、鉄道省経理部に二年、大富小学校教諭三年の経験を経て、大正二年十二月数え二十二の時、芳子は横浜港から希望を胸にアメリカへ向かった。

アメリカへわたっての最初の仕事は既製服店の店員、次は「ルイ」という東洋の骨董や陶器を売る大きな店を手伝い、夜は語学の勉強に通った。芳子はミセスマギー田辺という英国人の洋裁専門の人に教えてもらうことになり、自分の服はイブニングドレスまで作れるようになった。

大正六年暮近く、芳子は二十五歳で三十歳建築家の杉野繁一と結婚、大正九年に夫がフアグーソン建築会社の東京支社への転勤のため、母国日本に帰ってきた。大正十五年四月十日、新宿と虎の門の中間にあった南佐久間町の和合ビル四階に「ドレスメーカースクー

ル」という看板を掲げてスタートした。応募者はたったの三名しか集まらず、四月十二日から三日間の授業をやっただけで閉鎖となる。ところが地方からきた3人の生徒が「本格的に洋裁を教えるところは先生しかない。やめないで下さい。自宅でもいいから教えてください」というのに負け、自宅で始めることになった。九月になり、生徒も十三名になり、目黒駅側の上大崎町にアメリカへ帰る二世の文化住宅が手に入り十一月二日から「ドレスメーカー女学院」として改めて再開した。昭和二年になると、生徒も二十三名になり、だんだん洋裁で通う生徒が多くなり評判となり目黒駅から学校への道が「ドレメ道り」という名所になった。

評判が良くなるにつれ、生徒が益々増え新しい教室がすぐ一杯になり、学校経営が難しくなり夫繁一に会社を辞めてもらい理事長として学校経営を要請した（時昭和六年の春）。昭和十二年七月本格的に欧米の洋裁学校の現状を学ぶため欧米への旅にでた。アメリカやフランスの洋裁学校の教授法を積極的に勉強され、自分の学校の最大の土産にして帰ってきた。そして、昭和二十年には二千五百名を超えた生徒は女子挺身隊に徴用され五月二十九日には空襲を受け一〇〇〇坪のドレメは火に包まれた。住宅と寮が一つ残っただけで終戦から一週間たって杳然としているところに生徒が一人二人とやってきて何とか学校を始めてください。ミシンや材料は自分たちで持ってきてますという若い人達の熱意と希望に押し上げられ、昭和二十一年一月八日に学校再開の受付を行った。長い行列が目黒の駅まで続きMPがジープで何事だと駆けつける始末であった。千人で受け付けを締め切り校舎が足りないで週三日ずつ午前と午後に分け、四部制にして四月から授業を開始した。

昭和二五年短期大学設立、昭和三十九年には杉野女子大学設立となる。そして在校生一万を超えた杉野学園ドレメは世界でも類がなく各国の服装関係者、文化人、有名人の訪問が相次いだ。

芳子は晩年昭和五十三年七月二十四日、八十六歳の高齢で亡くなられた。まさに炎の如き人生であった。

松尾地区 小林 博



山武の昔ばなし

成東地区 戸村 茂昭

本稿は笹川新一さん（既に故人）が平成四年に自費出版した小本からの抜粋です。

鶴が大蛇になつたお話し

大同三年（八〇八）大富地区の芝原の里に浅間という猟師夫婦が住んでいました。夫は狩りが大変上手で、いつも狐や狸、鳥などを捕って暮らしていました。おかみさんも丈夫な体で家の仕事など手際よく片付け、円満な生活をおくっていました。四十歳を過ぎても子供がなく、おれ達夫婦には子宝は恵まれないものとあきらめていました。

ところが、その妻君が妊娠したのですから夫婦の喜びといったら大変なもので、どうかりつばな子供が無事生

まれるよう、神仏に祈つていました。

高令者のお産は現在でも難産が多いといわれますが、おかみさんも玉のような女の子を産みおとすと同時に息を引きとつてしまいました。父親は妻君に亡くなられて悲嘆にくれましたが、男手ひとつで娘を立派に育てあげました。器量よしの娘もようやく花も盛り十七歳となり、近郷の若い衆のアイドルで、俗に言う「娘一人に婿八人」的存在でしたが、なぜか本人は非常に疑い深く嫉妬心も人一倍強い女で、或る日どんなことがあつたのか、この娘が不意に深い淵に投身自殺してしまいました。父親はそれとは知らず、居なくなつた娘を気が狂つたようになつて探し求めました。

当時の芝原には深い淵や沼や大きな岩石がたくさんあつたそうで、父親がその淵のほとりに来て見ると、娘の履いていた草履が、きちんとそろえてあるのが見つかりました。娘の姿はどこにも見当りませんが、父親は半狂乱になつて娘の名を呼び探してもめましたが娘の姿はなく、夕闇せまる淵のほとりにただ荘然と立ちすくむばかりでした。

それからどのくらい時がたつたでしょうか、急に異様な妖気があたりにただよい、暮色につつまれた淵の奥から波音を立てて大きな蛇が現れました。その大蛇はまぎれもなく娘の顔をしておりました。父親は自分の眼をうたがい、水面に浮ぶ娘の顔をした大蛇をじつと見つめていると大蛇はなにも言わずただ恨めしそうな眼差を残して静かに淵深く沈んでしまいました。

父親は自分の娘が大蛇になつたことを人にも言えず悶々のうちに気が狂つて死んでしまいました。つまり母も、父も、娘も居なくなり浅間の家は絶えてしまいました。

は里人をなやまし、通行人に危害を加えるなどしてたいへん恐れられて、その淵に近寄る者もなく、幾年か過ぎました。或る年のこと、たまたまここを通りがかつた高僧が、この話を聞き里人の難儀を救い、地獄道に迷う大蛇を救つてやろうと淵の傍らの大岩の上に



登つて一心にお経を唱えようと大蛇が現れましたので大蛇に向つて、お前は悪い因縁で蛇道に堕ちてはいるが、もともとはこの上の谷に棲んでいた鶴なのだ、鶴は毎年多くの子を生んで楽しく群棲していたが、猟師のために次々とうち獲られ、牡の鶴も子も殺されて牝の鶴はおまえだけになつてしまった。憎い奴はあの猟師なのだ。どうしてくれようという一念が生を替え死を變じて猟師の子孫を絶やそうと、その妻の腹に生を替えて身ごもつた。そしてお産でその妻を亡ぼした。また淵に投身して父を亡ぼし、鶴の怨念は晴れたが、かえつて数々の悪業で蛇道に堕ちてしまったのだ。ここで愚僧が、読経回向してあげるからおまえは天に

生まれかわることができるので今後は人を悩ますことは絶対にするな、と懇々と諭し加持祈とうを行ないました。この高僧の回向のおかげで大蛇も天に昇つて生れ替つたのか、この里も平和になりましたとさ。

地名の雑学

山武地区 新田 博

漢字の読み方の基本は音と訓である。従つて地名の表記も音による表記、訓による表記、音と訓の混同による表記の三つに大別される。松を「シヨウ」竹を「チク」梅を「バイ」と発音するのが字音である。そして後に、松は「まつ」竹は「たけ」梅は「うめ」のことであるとわかつて訳したのが字訓である。音と訓の混同による読み方を片仮名は音で、訓は平仮名で表せば、例えば千葉県では東金「トウがね」茂原「モばら」埼玉県行田「ギョウだ」栃木県の宇都宮「ウツのみや」などが該当する。ちなみに、わが山武市は音(サン)音(ム)読みである。◎省字地名(表示の文字がなくとも読む地名)

「ケ」抜きの地名

市谷、阿佐谷、世田谷など、しかしJRの駅名は「市ヶ谷」「阿佐ヶ谷」「世田ヶ谷」と表示されている。他に熊谷(くまがや)、越谷(こしがや)、尼崎(あまがさじ)等

「の」抜きの地名

宇都宮(うつのみや)、下関(しものせき)、都城(みやこのじょう)、一関(いちのせき)、石巻(いしのまき)、鷹巣(たかのす)、角館(かくのだて)、鴻巣(こうのす)、一宮(いちのみや)、城崎(きのさき)、尾道(おのみち)等。

「な」抜きの地名

田辺(たなべ)、真鶴(まなづる) 水上(みなかみ)、
神辺(かんなべ)、水俣(みなまた)、川辺(かわなべ)
等。

次号に続く

☆☆★☆☆

文芸

短歌

成東地区 土屋敦保

大震災 早やひとしの 慰霊の日

寒き雨降り 言葉なく過ぐ

雨脚の 静かに聴こゆ 芽吹き雨

炬燵に入りて 空を見上げる

ありふれた 心静かな 新年を

日本酒をくむ 元日の朝

山武地区 斎藤 睦生

孫よりも 低く咲きぬ 糸桜

詠み人書かぬ 歌を下げあり

夫がのり 妻が押したる 車椅子

馴染みの人に 声をかけられ

俳句

山武地区 斎藤 睦生

菜種梅雨 仏社拝願 妻つれて

孫受験 仏に香たく 春どなり

檀林詣いる 一句そえ書き 奉賛帳



雑感

成東会員 S. T

新聞の俳句欄に載っていた一首

恋猫の 如く死ぬまで 春機あり

シルバーの存在は、シニアにとって若々しく生きる貴重なサプリメントのようなものだと思う昨今である。

編集後記

「冬は必ず春となる」東北の被災地にも春は巡ってきました。自然界の法則は確かなようであります。

会員の皆様、お変わりありませんか。シルバー人材センターも四月から、本所事務所を松尾に移転しました。

成東事務所での最後の広報委員会を終え、公益社団法人に生まれ変わっての「広報さんむ」第一号が出来上がりました。広報委員一同の努力の結集です。どうぞご覧下さい。

四月より公益社団法人山武市シルバー人材センターとして新体制でスタートしました。

広報委員会も任期を終え、交替する委員もおります。新しいメンバーによる委員会もスタートしました。

退任する委員を代表して一言。

今後益々の発展と、会員皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。(青沼)

平成二十三年度までの広報編集委員

本所 青沼 揚子 戸村 茂昭

布施 孝

蓮沼 山崎 秀夫

松尾 伊庭 勝子 小林 博

山武 斎藤 睦生 新田 博

☆☆☆ お知らせ ☆☆☆

「就業報告書(原紙)」をホームページからダウンロードできるようにしました。

<http://www.s.ic.ne.jp/sambu/>